9月 いまふく

2026.9.2
和歌山市立
今福小学校
第191号

自分に合った「眼鏡」を選ぶように
～一人ひとりに合った支援と特別支援学級～

保護者の皆様、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。
学校生活の中で、子どもたちの学び方や成長のペースは一人ひとり異なります。9月の土曜参観は「人権教育」を中心にした参観ですので、今回は、本校が大切に取り組んでいる一人ひとりに合わせた学びの環境づくりや、「特別支援学級」の役割についてお話しさせていただきます。

■ たとえば「視力」と「眼鏡」のように

視力が低下したとき、本人がどれだけ努力をして目をこらしても、見えにくさが自然に解消することはありません。しかし、「眼鏡をかける」という適切な支援やツールがあれば、見えにくさが解消され、安心して学習や活動に集中することができます。
発達の特性や学び方の違いも、これと同じです。



- **耳で聞くより、視覚的なイラストや文字を見る方が理解しやすい**
- **にぎやかな場所よりも、静かで落ち着いた空間の方が集中できる**
- **全体へ一斉に話しかけられるより、一つずつ順を追って説明される方が動きやすい**

これらは本人の「努力不足」や「やる気のなさ」ではなく、その子が持つ「視力（特性）」の違いです。そして支援学級は、その子にとっての「眼鏡（適切な環境や指導法）」を準備し、安心して学べるように整える場所です。



困っているのは、子ども本人です。

■ 決して「勉強が苦手だから入る場所」ではありません

支援学級は、単に学力の遅れを補う場所ではありません。自分に合った「眼鏡」を使って、「分かった！」「できた！」という達成感を重ね、自己肯定感を育みながら自立へ向かうための学びや生活の場です。

■ 「交流及び共同学習」でともに育ち合う

支援学級の児童は、自分に合った環境で学ぶ時間と並行して、「交流学級（普通学級）」でクラスの仲間と共に給食や行事、教科の学習などを過ごす「交流及び共同学習」を行っています。

- **支援学級の子どもたち：集団の中で友達と関わりながら、支え合いや社会性を学びます。**
- **普通学級の子どもたち：「人によって必要な眼鏡（支援）が違うこと」「困っている友達には工夫して手助けすればいいこと」を自然に体験し、思いやりの心を育みます。**

■ 互いの違いを認め合える学校をめざして

誰もが自分に合った「眼鏡」をかけて安心して過ごせる環境は、支援学級の子どもたちだけでなく、学校に通うすべての子どもたちにとって居心地の良い空間につながります。
保護者の皆様におかれましても、子どもたちが互いの違いを尊重し、共に成長していく姿を温かく見守っていただけますと幸いです。何か気になることやご質問がございましたら、いつでもお気軽に学校までご相談ください。

自分で考えて、
自分で行動する！
(始業式で、話したこと)

熊本県や千葉県で、被災された方がたくさんいます。そこで2学期から、『みんなの「いのち」を守る決意と、お互いを思いやる2学期に！』していきたいと思います。

「自分のいのちを守る力」を身につけること

・「もし今地震が来たらどこに隠れるか」「大雨のときは危険な川や用水路に 近づかない」といったことを自分で考えられるようになってください。
・誰かに言われたから動くのではなく、自分の力で「いのちを守る行動」ができるようになってほしいと思います。

「お互いを思いやり、助け合う心」を持つこと

・被災地では、多くの人たちが声を掛け合い、力を合わせて支え合っています。
・大きな災害のときだけでなく、学校生活でも同じです。2学期には、「運動会」や「遠足」など、仲間と力を合わせる行事がたくさんあります。
・困っている友達がいたら「大丈夫？」と声をかける。つらい思いをしている人に寄り添う。そうした皆さんのやさしい心が、みんなが安心して過ごせる温かい学校を作ります。

そうしていけば、「みんなで笑顔あふれる毎日」になります。
災害から学び、自分のいのちを自分で守る賢さと、友達を大切にする優しさを持った皆さんに成長してくれることを期待しています。

９月の主な行事予定

秋の交通安全週間
9/21(月)～30(水)

10月の主な行事予定

その他の連絡
9/19（土）土曜参観の授業公開は２限目の9:45～10:30です。（児童の下校は12:00）
その後、10:45～11:45まで、人権教育講演会「保護者向け情報モラル教室」を体育館にて　開催します。お子様が帰るまでの間、講演を聞いてお待ちください。
来校時は、名札の着用をお願いします。（貸出用名札は、受付で記入後お貸しします。）